

組織目標評価報告書（平成24年度）

部局名：自然生命科学研究支援センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標	
<p>各部門 利用者研修会(2~7回) 教育訓練講習会(1~8回)(法令に基づくものを含む) (光・放射線情報解析部門) 再教育訓練講習会(3回) 英語による新規教育訓練講習会(1回) 薬学部衛生薬学実習の実施(後期・集中) 医学部医学科基礎放射線学の講義及び実習 (動物資源部門) 医学部医学科生物学実習(集中)等学部教育の実施 (ゲノム・プロテオーム解析部門) 放射線業務従事者新規・再教育訓練講習会(2回・3回) (分析計測・極低温部門) 機器見学(講義等での)の受入れ(1-2回) 機器利用相談室(X線回折装置、LC/QTOF等)の開設(1時間/週)</p>	<p>自己評価</p> <p>(光・放射線情報解析部門) 新規教育訓練講習会:13回 再教育訓練講習会:5回 英語による新規教育訓練講習会:1回 医学部医学科基礎放射線学の講義及び実習 薬学部衛生薬学実習 (動物資源部門) 利用者研修会:8回 教育訓練:7回 医学部医学科生物学実習:20コマ(1800min, 9/24-28) (ゲノム・プロテオーム解析部門) 組換えDNA実験に関わる教育訓練を義務化し、計10回教育訓練を実施した。さらに、動物資源部門の技術職員向け、組換えDNA実験の事務地区担当者向け、外国人留学生用の講習会を1回ずつ実施した。 放射線業務従事者新規教育訓練を2回、再教育訓練を3回実施した(光放射線情報解析部門と共同)。 (分析計測・極低温部門) 《分析計測分野》 ・設置機器利用説明会・講習会(利用者研修会に相当):18回(3次元光学プロファイラ3回、原子吸光1回、XRD 1回、元素分析2回、単結晶X線1回、ペプチドシーケンサー1回、NMR2回、高分解能MS7回)、NMR資格認定試験:2回(5/30-6/7, 10/24-11/6)、分析機器紹介セミナー:3回(ピアコアとマイクロカル、3次元光学プロファイラ、DART-MS)、テクニカルセミナー:1回(HPLC) ・機器見学会(講義利用):1回(元素分析・NMR-理学部7/13) ・機器利用相談室(水曜日3限)を設置してHP広報したが、利用者は無かった。 常駐技術職員・教員が随時対応した機器利用相談は、合計112回。 《極低温分野》 ・液体窒素・液体ヘリウム利用者に対する教育訓練:1回(5/16)</p>
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
指標及び目標値は「①-1 目標」欄に記載のため省略	
②研究領域	
②-1 目標	
<p>各部門 研究成果論文の公表(1編以上/各部門) 学会発表(1回以上/教員/各部門) 外部研究資金獲得のための応募(1件以上/各部門) 学内外の共同研究の構築</p>	<p>自己評価</p> <p>(光・放射線情報解析部門) 研究成果論文の公表:1編 学会発表:6回 外部資金獲得のための応募:4件 学内外の共同研究の構築:2件(異分野融合先端研究コア若手共同研究他) 特許の取得:2件 (動物資源部門) 研究成果発表:4編 学会発表:3回 外部資金獲得への応募:5件+技術職員1件(採択:科研継続代表1件・科研継続分担1件) 共同研究:4件 (ゲノム・プロテオーム解析部門) 研究成果論文の公表(2編/部門) 学会発表(14回/部門)(このうち、第85回日本生化学会大会にて、鈴木絢一メモリアル賞を受賞した。1件) 外部研究資金獲得のための応募(14件/部門) 学内外の共同研究の構築(2件/部門) (分析計測・極低温部門) ・研究成果論文の公表:6(多田1, 砂月5) ・学会発表:35(多田4, 砂月31, 小坂2, -重複2) ・外部研究資金獲得のための応募:7(部門4(学外2, 学内2), 多田2, 砂月1, 小坂1, -重複1) ・共同研究件数:10(XRD3(太田), QTOF3(多田, 塩川), 多田2, 小坂2)</p>
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
指標及び目標値は「②-1 目標」欄に記載のため省略	
③社会貢献(診療を含む)領域	
③-1 目標	
<p>(光・放射線情報解析部門) 放射能による環境汚染対策について関係諸団体との連携を図り、協力し、支援する。 (動物資源部門) 動物実験の技術講習会の開催又は開催支援を行う(1回以上)。 動物実験関連領域の学会、協議会等の運営に関与する。 (ゲノム・プロテオーム解析部門) 高校生を対象とした、組換えDNA実験指導を実施する。(1回以上) 学外からのプロテオーム受託サービスを実施する。 (分析計測・極低温部門) 学外受託分析サービス(元素分析外)を行う。 学外者の機器見学会を受け入れる。</p>	<p>自己評価</p> <p>(光・放射線情報解析部門) 福島原発事故対応:福島県緊急時避難準備区域の井戸水の核種分析の協力(文部科学省依頼) 岡山県災害廃棄物の広域処理に関する勉強会講師 岡山県学校給食モニタリング調査事業委員会委員 科学先取り岡山コースにて「放射線と付き合うための基礎」を実施 (動物資源部門) マウス・ラット上級技術講習会主催(7/28-29: http://www.jaeat-kansai.org/event/eventmenu.htm) 第18回国立大学法人動物実験施設協議会高度技術研修開催(10/23-26: http://www.kokudoukyou.org/index.php?page=soukai_kensyuu) 国立大学動物実験施設協議会幹事校、同中型動物委員長(松木)、同組織委員会及び教育研修委員会委員(松木)、九州実験動物研究会評議員(松木) 日本実験動物技術者協会関西支部幹事(矢田)、岡山実験動物研究会幹事(矢田) (ゲノム・プロテオーム解析部門) 高校生を対象とした組換えDNA実験指導を実施した(1回)。その他、薬学部のオープンキャンパス(1回)・高校生見学会を担当した(4回)。 全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会が主催する組換えDNA実験の安全講習会の運営を担当した。 中国地区バイオネットワーク連絡会議を通じ、大学間連携による組換えDNA実験の管理、研究技術支援を行った。 (分析計測・極低温部門) 《分析計測分野》 ・学外依頼分析(設備NW含):54件, 12団体 元素分析:46件, 6団体, NMR:3件, 2団体, X線結晶解析:1件, 1団体, 粉末X線回折:1件, 1団体, LC/MS:2件, 1団体, ペプチドシーケンサー:1件, 1団体 今年度新たに、X線結晶解析と粉末X線回折の学外依頼測定を公開した。 ・学外者の機器見学:2回 和光純薬+医学部、希少金属材料研究所 産学官連携行事への参加:2回 知恵の見える市(11/2) 岡山リサーチパーク研究展示発表会(9/10) 《極低温分野》 ・サイエンス・キャンプ(JST事業8/16)、学内公開などの機会に、高校生等に液体窒素を使ったデモンストレーションなどで科学に対する啓蒙活動に協力した。</p>
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
指標及び目標値は「③-1 目標」欄に記載のため省略	

④センター業務	自己評価
<p>④-1 目標</p> <p>各部門 各部門の日常業務を完全に実施する。(動物実験及び組換えDNA実験支援、マウス胚凍結(7件以上)、共通機器の利用促進、受託分析、放射線安全管理、作業環境測定の実施、施設の維持管理等) ホームページの充実、随時更新を図るとともに広報誌や利用の手引きを発行する。</p> <p>(動物資源部門) 鹿田施設でのマウスの最大収容能力を増強する。 平成23年度動物資源部門鹿田施設・津島北施設年報を発行する。 センターニュースの発行(3回以上)</p> <p>(ゲノム・プロテオーム解析部門) 組換えDNA実験安全管理委員会と連携して、組換えDNA実験に関する施設の査察等による安全管理体制の構築を開始する(耐震工事実施部局を除く)。 学内利用者へのゲノムプロテオーム解析機器講習会を実施する(1回以上)</p> <p>(分析計測・極低温部門) 設備サポートセンター整備に向けて以下を実施する。 ・大学連携研究設備ネットワークの予約システムへ移行する。 ・分析計測分野設置の機器の再検討を行う。 ・共同利用機器(分析計測分野内外)を調査し、共同利用機器を拡充する。 ・分析計測分野以外の機器への技術職員派遣体制を整備する。 学内液体ヘリウム供給体制を拡充する。</p>	<p>(光・放射線情報解析部門) 放射線安全管理、被ばく管理及び作業環境測定の実施と、その全学支援を従来通り実施した。 施設の維持管理も従来通り実施した。 鹿田施設ニュースを発行した。</p> <p>(動物資源部門) ・マウス胚凍結7件(3件完了、4件実施準備) ・中型動物技術支援業務立ち上げ・運用(依頼実施件数45件) ・鹿田:利用者所有のセーフティーキャビネット、麻醉装置、生体モニター、手術台の共同利用化、共同利用機器の整備(血算及び生化学装置、ガス滅菌装置、ミニプタ飼育装置、小動物用麻醉装置)及び施設保守及び室内整備(感染実験室整備、中型動物実験室飼育室整備、マウス飼育室整備)</p> <p>・津島北施設:共同利用機器の整備(ラット飼育装置の追加、セーフティーキャビネット、小動物用麻醉装置)及び施設保守(エリア外漏水を原因とする室修繕) ・実験室及び共同利用機器の予約システムのネットワーク化(鹿田施設及び津島北施設) ・平成23年度施設年報発行 ・センターニュース4回発行 ・鹿田施設においてマウス飼育室新設1室及びマウス飼育装置3室15台更新し、マウスの収容能力を増強した。</p> <p>(ゲノム・プロテオーム解析部門) 部門の日常業務は全て行った。 ・センター広報のためにリーフレットの作成、ホームページの更新を行った。 ・組換えDNA実験安全管理委員会と連携し、組換えDNA実験に関する施設の査察を2部局実施し、安全管理体制の構築を図った。 ・組換えDNA実験の安全管理の効率化を図るため、Web申請システムを導入した。 ・学内利用者へのゲノムプロテオーム解析講習会を実施した(4回。うち1回は分析計測部門との共同)。 ・学内と学外へ向けプロテオーム解析の依頼分析を実施した(学内11件、学外14件)。</p> <p>(分析計測・極低温部門) 《分析計測分野》 ・共同利用機器の利用促進:設備NW登録会計責任者数(登録研究室数に相当)98名、学外利用登録団体12団体 ・学内依頼分析:元素分析1780件、X線結晶解析41件、NMR5件、LC/MS32件、シーケンサー4件(X線結晶解析依頼測定を学内外に公開した結果、昨年度より35件増加した。学内助成による元素分析室充実施策により、元素分析依頼が約2倍に増加した。) ・ホームページの充実:新ページ数3、ニュース更新数30回 広報誌発行(3月)、X線解析依頼分析宣伝チラシ発行(3/25) 分析計測分野講演会:1回、設備NW予約システム説明会:1回 センターコロキウム発表:1演題(1/24) ・大学連携研究設備ネットワークの予約システムへ移行した(11月) ・分析計測分野管理機器を見直し、6機器を自然科学研究科より移管した。 ・電子顕微鏡を廃棄し、電子顕微鏡室を再整備した。 ・クリーンルームを修理した。 ・技術職員派遣ではなく、予定機器をセンター移管して技術支援した。 ・大学戦略経費4-1に採択され、維持費・修理費支援、技術支援を試みた。 ・全学を対象に共同利用機器の設置要望調査を2回実施(5月と1月)し、集計結果より分析計測分野に導入すべき具体的機種選定と順位付けを行なった。 ・大学間技術交流、特に中国四国地区設備連絡会の活動として、公開技術講習会を実施(9月元素分析)、広島大学の公開技術講習会と機器分析センター会議技術部会参加(太田)、大学間リユース設備調査を実施した(11月)。</p> <p>《極低温分野》 ・液体窒素供給実績 約6,500回、62t(160研究グループ) 液体ヘリウム供給実績 約500回、35,000L(20研究グループ) 学内供給液体ヘリウム用ガス貯蔵庫の増設(貯蔵量1.6倍 2013.3/7 完成検査)</p>
<p>④-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p>	
<p>指標及び目標値は「④-1 目標」欄に記載のため省略</p>	
<p>【総括記述欄】</p>	
<p>センター業務に関しては、全学からの依頼業務に関して適切かつ確に対応している。配置定員数に対して実働職員数が少ないハンディの中で、質、量ともに多大の成果を挙げている事は高く評価できる。教育、研究、社会貢献に関しては特筆すべき事項が多い。業務量から考えて、定員要求をすべき時期に来ていると強く考える。</p>	